



イチゴとタマネギの植え付けについて

これからの時期が植え付け適期となる

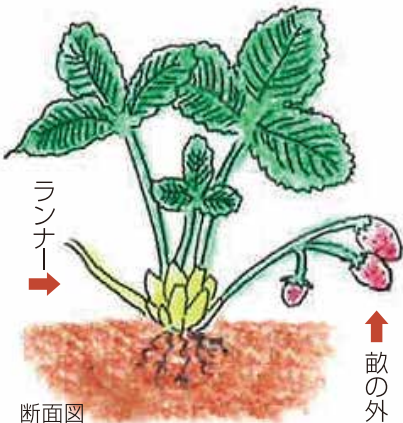
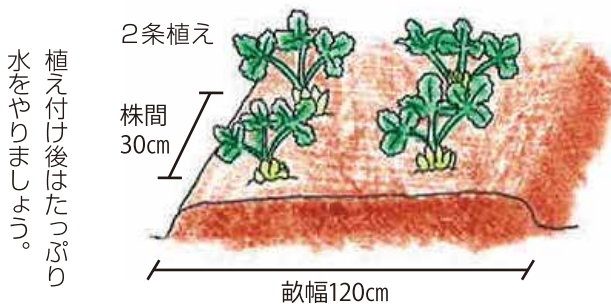
イチゴ苗やタマネギ苗の植え付けポイントを見ていきましょう。

イチゴの植え付けのポイント

イチゴの根は肥料焼けしやすいため、元肥は植え付けの半月以上前に与え、十分土になじませましょう。(元肥の目安：1a 当たりいちごオール6：8kg、よつりん：3kg)



植え付けるときは株もとのクラウン(葉が出てくる生長点)がすべて埋まらないようクラウンの下が少し埋まるくらいの浅植えにします。深植えすると生育が悪くなるため注意しましょう。



断面図

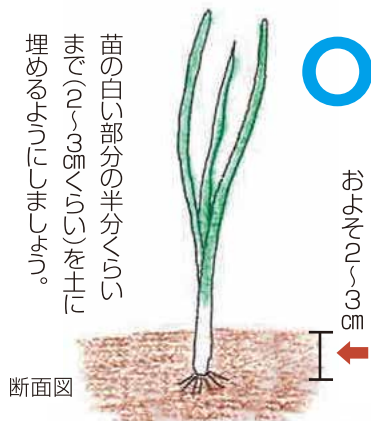
↑ 畝の外側に実がつく

イチゴはランナー(親株とつながっていた茎)とは反対側に実がなります。ランナーを通路と反対側に向けて植え付けると、通路側に向けて実がなるため収穫しやすくなります。

ランナーを畝の内側に向くように植える

タマネギの植え付けのポイント

植え付けが早いと苗が大きいう状態で冬を越すことになり、春のとう立ちが増えてしまいます。品種に合わせて適期に植え付けましょう。早生品種(スパート・ソニックなど)の植え付けは10月下旬～11月上旬、中晩生の品種(O・K黄・ケル玉など)の植え付けは11月中旬～12月上旬です。



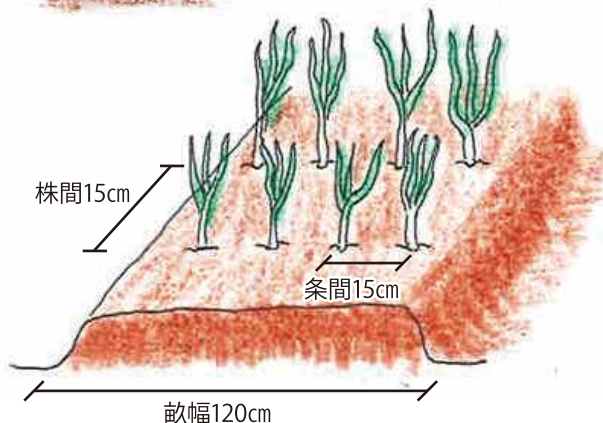
断面図

苗の白い部分の半分くらいまで(2〜3cmくらい)を土に埋めるようにしましょう。

× 緑の部分も土に埋まっている

深植えしすぎると生育が悪くなります。

断面図



タマネギの根は乾燥を嫌うため、植え付け後は株もとの土をしっかりと押さえ、土と密着させましょう。

植え付けに適した苗の大きさは、直径5～6mm(鉛筆くらいの太さ)です。それより太いと春にとう立ちしやすくなり、細すぎると霜で枯れたり、球が小さくなったりします。また、マルチを張ると、地温を高めたり雑草を防止するといった効果があります。マルチがあることで追肥が手間になりますが、植穴1つずつに追肥しましょう。